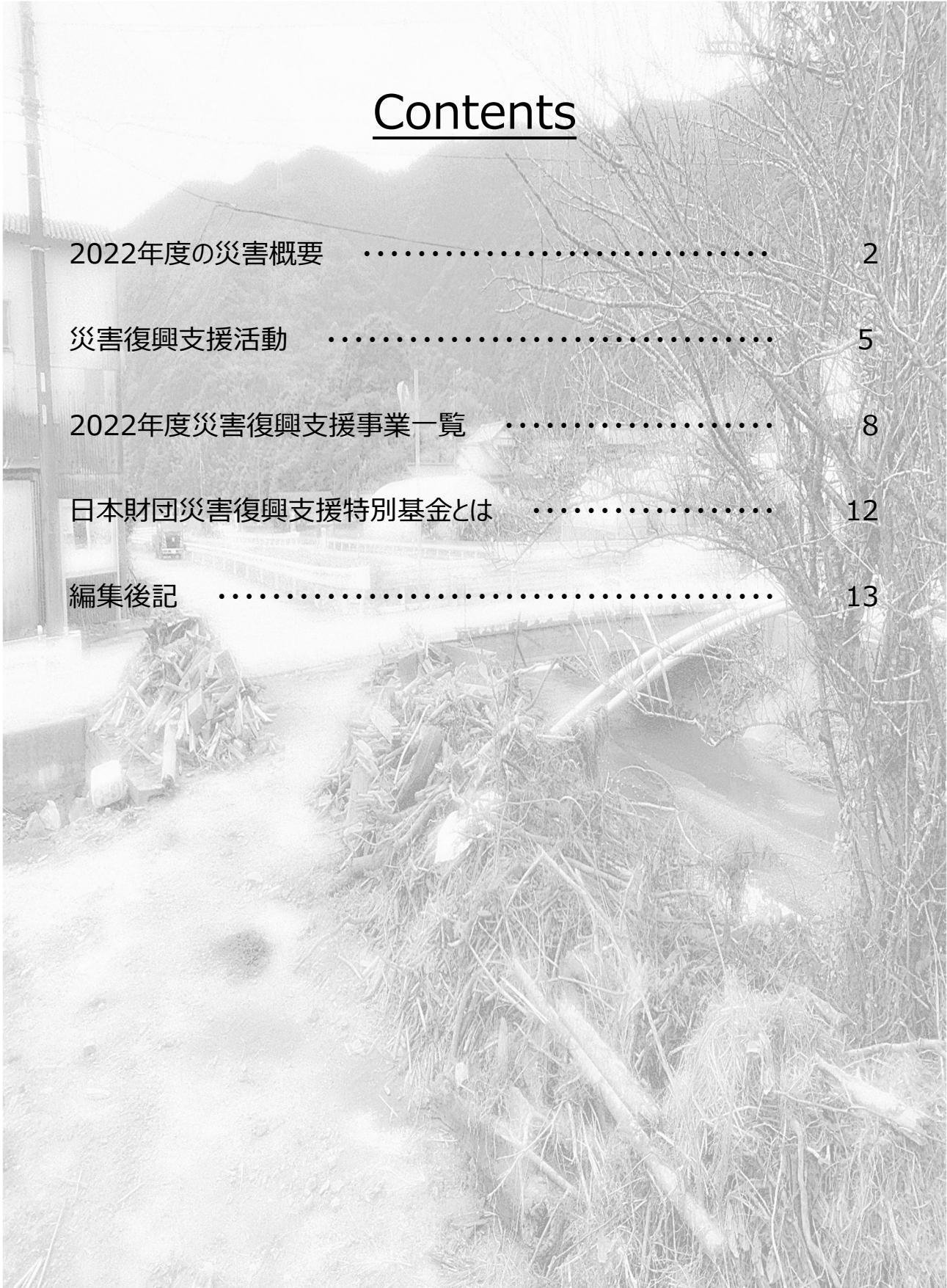




日本財団災害復興 報告書 2022

Contents

2022年度の災害概要	2
災害復興支援活動	5
2022年度災害復興支援事業一覧	8
日本財団災害復興支援特別基金とは	12
編集後記	13



2022 年度の災害概要

2022年度は、依然として新型コロナウイルスが全国的に猛威を振るう中、前線や台風の影響により断続的に大雨が降り、日本各地で多くの方が被災されました。被害に遭われた皆さまやそのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

日本財団は中立的な立場で迅速かつ適切な支援を実施するため、自治体やNPO等と密に連携しながら現場のニーズに合わせた支援を行いました。ご支援いただいた皆さまのご厚意に誠に感謝いたします。

令和 4 年 8 月大雨被害

令和 4 年 8 月 3 日から 4 日は、東北南部から新潟県にかけて前線が停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発化しました。複数の線状降水帯が発生し、4 日は石川県や福井県、5 日から 6 日は、福井県・滋賀県・三重県等で大雨が降りました。8 月 8 日から 14 日は、前線が北日本から北陸地方に停滞し、北海道地方から北陸地方の広い範囲で猛烈な雨が降り、青森県や秋田県では 7 日間で平年の 8 月の月降水量の 2 倍を超える大雨となりました。また、13 日から 14 日は、伊豆半島に上陸した令和 4 年台風第 8 号の影響により、東日本太平洋側を中心として、15 日から 22 日は、前線や低気圧の影響により北日本から西日本において、24 日から 25 日は、低気圧により東日本や西日本においてそれぞれ大雨となりました。

8 月 3 日から 9 日にかけて、青森県・山形県・新潟県・石川県・福井県の計 5 県 35 市町村に災害救助法が適用され、全国における住家被害（全壊、半壊、一部破損、床上浸水、床下浸水）の合計は 7,415 棟に上りました。また、新潟県を初め、青森県・秋田県・福島県・石川県等、全国で 206 件の土砂災害および死者 2 名、行方不明者 1 名、重軽傷者 9 名という被害が出ました。

令和 4 年台風第 14 号被害

令和 4 年 9 月 14 日 03 時に小笠原近海で発生した台風第 14 号は、18 日 19 時頃に中心気圧 935hPa、非常に強い勢力で鹿児島市付近に上陸し、19 日朝にかけて九州を縦断しました。その後、進路を東寄りに変え、20 日 03 時に日本の東で温帯低気圧に変わり、九州を中心に西日本で記録的な大雨や暴風となりました。特に宮崎県では記録的な大雨となったことから、気象庁は宮崎県を対象とした大雨特別警報を発表しました。

宮崎県・福岡県等の九州全土および山口県・高知県の計 9 県 286 市町村に災害救助法が適用され、全国における住家被害（全壊、半壊、一部破損、床上浸水、床下浸水）の合計は 3,506 棟に上りました。また、宮崎県を中心として、全国で 111 件の土砂災害および死者 5 名、重軽傷者 161 名という被害が出ました。

令和4年台風第15号被害

台風第15号は令和4年9月23日に高知県室戸岬の南約300キロで発生後、北東へ進み、近畿地方や東海地方に接近した後、24日に東海道沖で温帯低気圧となりました。台風周辺の発達した雨雲により、東日本の太平洋側を中心に大雨となり、静岡県や愛知県で線状降水帯が発生し、23日夕方から24日明け方にかけて記録的な大雨が降りました。

静岡県の23市町に災害救助法が適用され、静岡県を中心として、全国における住家被害（全壊、半壊、一部破損、床上浸水、床下浸水）の合計は12,661棟に上りました。また、静岡県を初め、愛知県・三重県・千葉県等、全国で178件の土砂災害および死者3名、重軽傷者16名という被害が出ました。

(参考文献)

内閣府a, “令和5年版防災白書”, 内閣府防災情報のページ, 2023-06.

https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/r5_all.pdf

内閣府b, “令和4年8月3日からの大雨等による被害状況等について(令和4年11月1日13:00現在)”, 内閣府防災情報のページ, 2022-12.

https://www.bousai.go.jp/updates/r4_08ooame/pdf/r4_08ooame_16.pdf

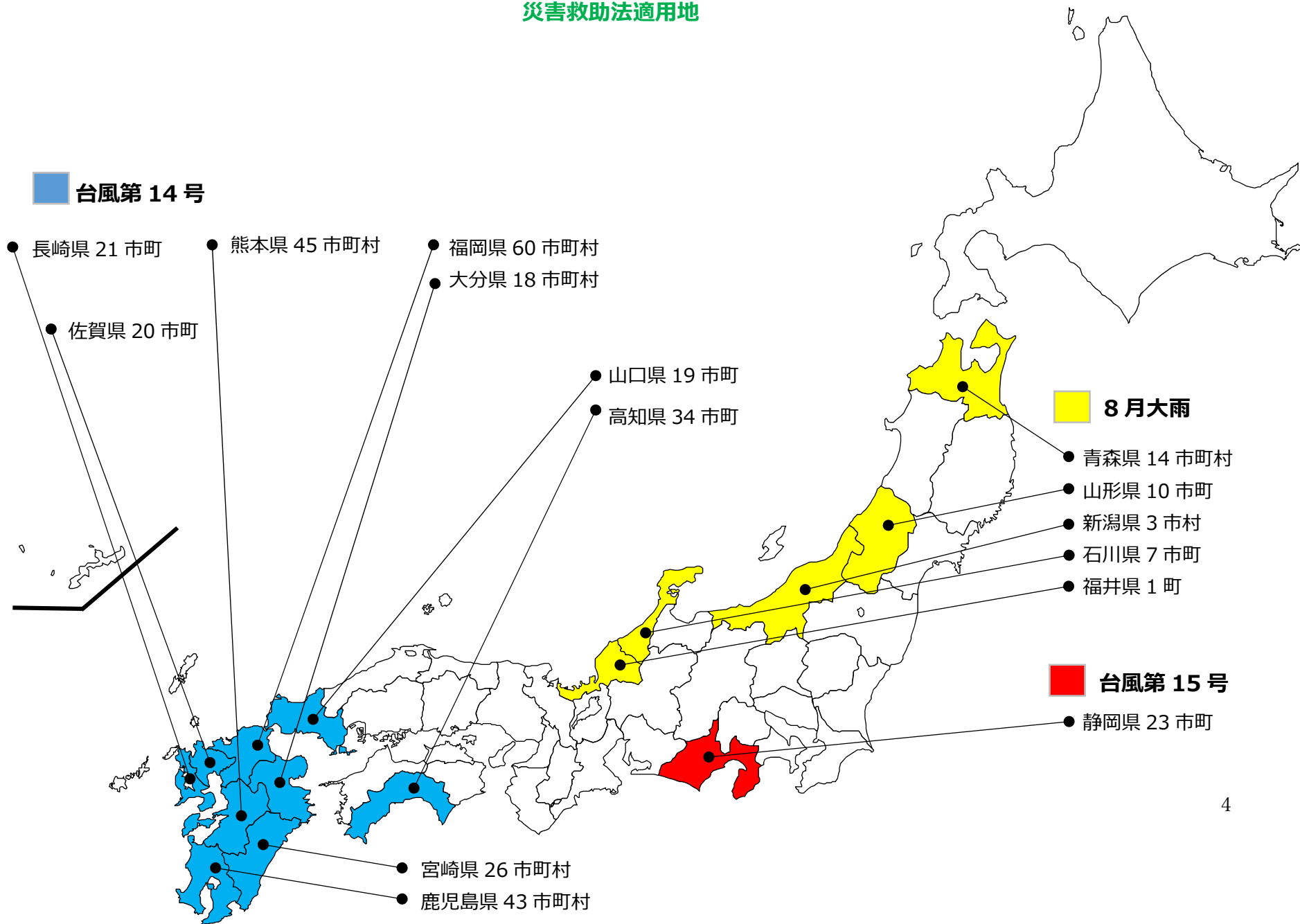
内閣府c, “令和4年台風第14号による被害状況等について(令和4年11月2日13:00現在)”, 内閣府防災情報のページ, 2022-12.

https://www.bousai.go.jp/updates/r4typhoon14/r4typhoon14/pdf/r4typhoon14_09.pdf

内閣府d, “令和4年台風第15号による被害状況等について(令和4年11月2日13:00現在)”, 内閣府防災情報のページ, 2022-12.

https://www.bousai.go.jp/updates/r4typhoon15/pdf/r4typhoon15_04.pdf

災害救助法適用地



災害復興支援活動

令和4年8月大雨

様々な団体との連携による活動 被災地NGO協働センター

現場における活動の声

2022年8月に発生した豪雨により被害を受けた石川県小松市中海町での支援活動を8月19日から開始しました。家屋の片付け・清掃、お茶会、足湯、傾聴、また、炊き出しと配食サービスの調整・サポート等、幅広く活動しました。家屋の片付け・清掃については、コミサポひろしまと、お茶会・足湯は北陸学院大学や高野山足湯隊と協力して行いました。配食と炊き出しについては、レスキューストックヤード・福岡県の僧侶・Team癒しingのボランティアメンバーと一緒に行いました。また、小松市社会福祉協議会や災害ボランティア活動支援プロジェクト会議のメンバーと情報共有の上、支援活動にあたりました。お茶会は、回数を重ねるごとに参加者も増え、不安解消、孤独を回避、情報交換の場となりました。住民さんの中には、関係機関や近隣住民と十分につながっていない障害者の方もいらっしゃり、避難の方法や日常でのつながり方を見つめ直す必要があることを痛感しました。また、地元の皆さんに参加いただくことで、課題解決の糸口や今後の防災・減災に向けたきっかけとなりました。地元住民の女性2名が毎回参加し、場を和ませて下さったのが印象に残っています。

被災住民の声

やっぱり災害に大きいも小さいもありません。一人一人ができることを行うことでみんなの笑顔が取り戻せると思います。私に今何ができるかわかりません。。。でも、じっとしていても前には進みません。



お茶会の様子①



床剥がしの様子



お茶会の様子②

地元社協・住民も一丸となった被災地支援 (特) リエラ

現場における活動の声

大分県・宮崎県における災害ボランティアセンター閉鎖後もまだ片付け作業を行っている被災者を訪問し、ニーズ調査やメンタルのヒアリングを行うことが出来ました。また、資機材が不足している被災地の社協に貸し出しをしたことで、資機材が必要な被災者の方々に届けることが出来たり、キッチンが被災して調理ができない状況の中、配食を行ったことで被災者の方からとても喜ばれ、気持ちがあぐれたことで想いを聞きだすことが出来ました。それから、サロンを開催した時に被災地である宮崎県のエステシャンの方々にボランティアで被災者にマッサージをして下さったことが印象に残っています。宮崎県延岡市社協との連携が上手く進まなかったり、移動時間が長いため活動時間が短く、土砂出し作業を積極的に行えなかったりと大変なこともありました。被災地の社協や地元ボランティア、地元住民また他の災害支援団体の方々と協力したことで成し得た活動だと思います。

被災住民の声

今さっき仕事から帰って来た。疲れて買い物に寄らずに「カップラーメンでもいいや」と思って帰って来たからとても嬉しい。豚汁はとても嬉しい。あったかいのが嬉しい。

お弁当とかばかりだから。汁物が助かる、嬉しい。



配食しながらヒアリングの様子



炊き出しの様子②



炊き出しの様子①

技術系NPOによる被災家屋復旧作業 (特) 災害救援レスキューアシスト

現場における活動の声

令和4年台風15号の被災者に対して、土砂の撤去・床下の泥出し・乾燥・壁はがし・カビの除去などの技術的支援を行ないました。8月26日から静岡県磐田市でボランティアセンターの立上げサポートからスタートし、現地調査や活動のコーディネート、技術支援等を行ないました。静岡市で活動を行っていた連携団体の活動に加わり、重機活動や床下の泥出し、取り残されていた方々の支援など技術支援を中心に活動しました。また、活動に加わって下さった地元団体や消防士などへ講習会や実際の活動を通して技術を伝える活動も行いました。当初の予定より継続的に活動したため、最終的には令和5年4月で活動終了となりました。磐田市では一部の地域で地区内を流れる敷地川の決壊による浸水がありました。ボランティアセンターの立上げから関わることで、被災者に寄り添った活動を行なうことができました。地元のボランティアコーディネーターを巻き込む形をとれたことで、複数の活動を同時に行なうことも可能となりました。地元の方々が多く参加して下さった活動のおかげで、地元で活動できるメンバーやチームが増えたことが良い成果となったと考えます。

静岡県社会福祉協議会とは令和3年度から講習会の依頼などでつながりがありました。また地元団体である「災害対応NPO MPF」の代表松山氏とも連携があったことから情報の収集もスムーズに行うことができ、磐田市での活動を開始することができました。初期の災害ボランティアセンターの立上げから関わることで、社協職員と同じ方向を向いて活動を行なうことができたことも大きな成功要因であったと思われます。地元のボランティアさんの熱量もあり、またコーディネーターの方々にお願いして活躍していただけたことが素早い活動につながったと思います。



重機による泥出しの様子



床下泥出しの様子



被災家屋における活動の様子

2022年度災害復興支援事業一覧

※ 2023年6月19日現在

災害名・支援団体数	支援金額 (円)
令和4年8月大雨 (50団体)	69,750,000
令和4年台風第14号・15号 (37団体)	57,930,000

計87団体・総支援金額：127,680,000円

令和4年8月大雨被害：47団体47事業 58,800,000円

No	団体名	支援決定額 (円)
1	3.11石巻支援 チームEース	500,000
2	DEF～災害エキスパートファーム	1,230,000
3	DRT-JAPAN三重	1,000,000
4	(一社) Jump	1,000,000
5	NGO災害救援チーム フェニックス救援隊	810,000
6	(一社) OPEN JAPAN	3,000,000
7	sevog	1,000,000
8	SVTS風組	400,000
9	TASUKE愛	1,000,000
10	TEAM SHIRO	1,000,000
11	いわてNPO災害支援ネットワーク	1,000,000
12	コミサボひろしま	1,400,000
13	(公社) シャンティ国際ボランティア会	1,000,000
14	たてもの修復支援ネットワーク	1,000,000
15	チームこのへん	1,000,000
16	チームすぎさん	1,000,000
17	チームふじさん	1,000,000
18	チーム八ヶ岳	1,000,000
19	(特) とちぎボランティアネットワーク	700,000
20	(一社) ピースボート災害支援センター	2,250,000
21	ヒューマンシールド神戸	3,000,000
22	ふくちゃ部	730,000
23	(特) レスキューストックヤード	1,000,000
24	(一社) 愛と感謝	1,000,000
25	九州テクニカルネットワーク	560,000

26	災害NGO結	2,300,000
27	災害ボランティア愛・知・人	1,500,000
28	災害応援にゃんこ隊	800,000
29	(特) 災害看護研究所	1,000,000
30	(特) 災害救援レスキューアシスト	1,000,000
31	(特) 災害共生支援機構from	1,000,000
32	災害支援TEAM B-DASH	3,000,000
33	災害支援TEAMのらぼら	1,000,000
34	災害支援信濃町連絡会	1,000,000
35	(一社) 四番隊	1,000,000
36	(特) 市民社会サポートやまがた	830,000
37	小岩内地区復興委員会	900,000
38	(一社) 新潟県鍼灸マッサージ師会	1,000,000
39	(一社) 男女共同参画地域みらいねっと	990,000
40	(一社) 日本カーシェアリング協会	5,000,000
41	(一財) 日本笑顔プロジェクト	1,000,000
42	被災地NGO協働センター	1,000,000
43	風組関東	1,900,000
44	(特) 防災・災害ボランティア かわせみ	1,000,000
45	(一社) 防災ジャパン	1,000,000
46	北陸学院大学よりそいの花プロジェクト	1,000,000
47	(特) 有明支縁会	1,000,000

令和4年7月・8月大雨被害：3団体3事業 10,950,000円

No	団体名	支援決定額 (円)
1	(一社) OPEN JAPAN	4,950,000
2	(一社) 四つ葉	1,000,000
3	(一社) 日本カーシェアリング協会	5,000,000

令和4年8月大雨・台風第15号被害：1団体1事業 3,850,000円

No	団体名	支援決定額 (円)
1	(一社) OPEN JAPAN	3,850,000

令和4年8月大雨・台風被害：1団体1事業 1,590,000円

No	団体名	支援決定額 (円)
1	(特) MAKE HAPPY	1,590,000

令和4年台風被害：4団体4事業4,180,000円

No	団体名	支援決定額（円）
1	（一社）おもやい	1,000,000
2	（特）リエラ	1,000,000
3	（特）宮崎文化本舗	280,000
4	（特）静岡県ボランティア協会	2,900,000

令和4年台風被害に関わる地域の災害対応力向上：1団体1事業4,910,000円

No	団体名	支援決定額（円）
1	（一社）OPEN JAPAN	4,910,000

令和4年台風第15号被害に関わる支援活動：30団体30事業43,400,000円

No	団体名	支援決定額（円）
1	3.11石巻支援 チームエース	800,000
2	DEF～災害エキスパートファーム	1,000,000
3	（一社）Jump	3,000,000
4	NGO災害救援チーム フェニックス救援隊	870,000
5	（一社）OPEN JAPAN	4,980,000
6	TEAM SHIRO	1,000,000
7	（特）Vネット	1,000,000
8	お寺災害ボランティアセンターテラセン	1,000,000
9	かながわ災害ボランティアバスチーム	1,000,000
10	コミサポひろしま	1,000,000
11	しずおか茶の国会議	460,000
12	（一社）ピースボート災害支援センター	4,500,000
13	（特）ユナイテッドかながわ	1,000,000
14	（特）レスキューストックヤード	1,000,000
15	縁の下のもぐら	1,000,000
16	河津桜ボランティアセンター	250,000
17	災害NGO結	3,080,000
18	災害ボランティア愛・知・人	700,000
19	（特）災害救援レスキューアシスト	1,820,000
20	災害支援ONE TEAM	1,000,000
21	災害支援TEAM B-DASH	1,000,000
22	災害支援TEAMのらぼら	1,000,000
23	震災がつなぐ全国ネットワーク	1,000,000
24	（社福）世田谷ボランティア協会	750,000

25	藤岡災害ボランティアサークル	600,000
26	(一社)日本カーシェアリング協会	5,000,000
27	(一財)日本笑顔プロジェクト	3,320,000
28	被災地N G O協働センター	1,000,000
29	風組関東	1,350,000
30	(特)防災・災害ボランティア かわせみ	1,000,000



日本財団災害復興特別基金

近年、線状降水帯による大雨や台風の大型化により、
大規模災害が頻発し、深刻な問題となってきました。

一方で、首都直下型地震や南海トラフ大地震の発生も懸念され、
それらへの備えは喫緊の課題となっています。

特別基金は緊急支援に対応するために2014年3月に設置した基金です。

日本財団は2014年3月、東日本大震災などにおける災害復興支援活動の経験から、
大規模な災害が発生した際に民の立場で迅速な緊急支援を実施することを目的として、

目標額300億円の「災害復興支援特別基金」を立ち上げました。

東日本大震災の最大の教訓は、災害対策は起きてからでは遅いということです。

大災害が起きたとき、真っ先に動くための支援金を蓄えておく仕組みが必要です。

編集後記

2022年度は前線や台風の影響により、日本各地で豪雨災害が発生しました。
被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

被災現場の深刻な状況・被災された方々の心境・現場で懸命に活動される方々の様子等、
現場でないと分からないことが多々あります。

日本財団は毎年のように発生する災害に対し、現場を自分達の目と耳で確かめ、
行政・社会福祉協議会・NPO・地域社会の方々と手を取り合い、
被災地の一日も早い復旧・復興のために今後も全力で支援を続けて参ります。

災害対策事業部 災害対策事業チーム

部長	外海 陽子
アドバイザー	黒澤 司
シニアオフィサー	間遠 登志郎
チームリーダー	樋口 裕司
	高島 友和
スタッフ	真野 優
	寺田 歩
	岡田 卓也
	牛草 美帆
	石川 祐香子
	南 麻紀
作成・編集	日本財団



日本財団
〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2
Tel : 03-6229-5111
E-mail : saigai@ps.nippon-foundation.or.jp